

ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者氏名：NT様（60代 男性 要介護5）

利用期間：平成29年5月～平成30年2月末ご逝去

主疾患：ALS（筋萎縮性側索硬化症）

ALSがあり筋力低下していくなか、病院での看取りを希望されていたが、信頼しているスタッフに看取ってもらいたいと、施設で看取りをさせていただいた事例。

内 容

平成27年秋ごろから症状出現、平成28年春に検査入院しALSと診断される。在宅にて生活されていたが平成29年4月に人工呼吸器の調整のため入院。（K病院）退院後の生活についてリハビリの出来る施設を希望され、平成29年5月にココタウン訪看も携わっていたこともあり、本入居の運びとなる。施設としてALSの入居は初めてであり、K病院と同じケアを希望され、ナースと介護でマニュアルを作成ご本人の希望に添えるよう施設全体でミーティングを実施しました。

- 1) 栄養科として食事の内容、硬さなど毎日アンケートを取り嗜好を把握した。
- 2) ナース、介護としてレスピの勉強会を開催し装着方法等レクチャーした。又、日々のケアについても都度対応を考え本人と話し合い変更をした。
- 3) 訪問リハビリステーションとして在宅リハビリ継続、嚥下訓練を開始した。入所当初はお話も出来会話の中で笑顔をみることができ、離床時は散歩の声掛けをしたり、コンサートがある日は少しの間ではあったが参加することが出来た。信頼関係が築けるようになる。進行が速く秋口には経口摂取が出来なくなり胃ろうからの摂取となる。徐々に離床時間も短くなり、苦しい訴えも多くなる。レスピを装着している時間が段々増えて行った。レスピの調整などで入退院を繰り返すようになる。病気の進行が進むにつれ痛みの訴え、胸苦の訴えが頻回になりナースコールも多く、本人不安な状態が続く中、本人の訴えを聞くことに30分以上かかる日もありましたが、それでも傾聴をし、希望に添えるよう他職種と連携し協力をしました。思いを聞き取れず歯がゆさや、苛立ちを身振りで表現される時もありました。平成30年1月頃に入ると、文字盤を指す力もなくなり、痛みなどの緩和ケアとなり麻薬を使用する事となる。寝ている事が多くなり、開眼している姿をみる事が少なくなりました。起きていると、呼吸することすら苦しいと言われ、吸引、口腔ケアを希望することが多くあった。本人が痛みや苦しみが無いようにするのであれば、麻薬で寝ていることが多くても仕方がないと、チームで話し合うことが多く、スタッフ個々に色々な葛藤がありました。ALSとは何か?から始まり考え、悩み9か月の間ご家族の気持ち寄り添いながら、看護・介護をさせて頂き、平成30年2月末ご逝去となる。



ご家族からはLCG湘南に入って良かった。家ではここまで出来なかった。生前N様は病院で看取りたいと希望をされておりました。ですが、最後にLCG湘南を選んで頂きました。医療が整えられている病院よりも、信頼しているスタッフに看取ってもらいたい。とのお言葉をいただきました。